

インカム導入による時間の使い方改革 ～患者支援の時間作り～

○斉藤増雄、田倉典男、前野智美、稗田孝子、蛭名由美子、西直美
岸下結花、森松 静、進藤 晃

【はじめに】

当介護療養型医療病棟では、看護、介護配置数が少なくルーチン業務に追われ患者は刺激が少ない単調な環境で療養生活を送っている。そのような中では身体的、肉体的機能維持や向上を支援することはできない。そこで患者がその人らしい時間が過ごせるよう支援する必要があると考えた。今回、インカムを導入することで連絡業務と動線の短縮化に繋がり患者支援の為に時間を確保する事が出来たのでここに報告する。

【方法】

- ① インカム（10台）導入
- ② 病棟の配置、使用方法・運用ルールをカンファレンスにて周知
- ③ インカム導入前後の業務量測定
- ④ 「その人らしさ」への支援計画と実施

【結果】

- ① インカム導入前に比べ患者対応までにかかる時間・スタッフ間の連絡時間が短縮した
- ② カンファレンスを行ない運用方法が統一され効果的にインカムを使用する事が出来た
- ③ 優先順位の高いケアに迅速に対応できた
- ④ ベッドサイドケアの時間が増加しその人の意向や趣味（フェイスマッサージ、アロマセラピー、ネイルケア）に沿ったケアを実践することが可能となった

【考察】

当病棟ではインカムを導入することで、限られた人員・時間の中でも患者にとって刺激となるケアを実践する時間を確保することができた。これはインカム導入によりナースコールに対し複数のスタッフが同時に駆けつける、担当ナースを探すなどの移動動線や、介護士を探す時間が短縮した結果と考える。患者や私達にとって重要性を持たない移動や人を探す時間を患者にとって重要である「その人らしさ」を支援する時間に変えてゆく事はマンパワー不足の現場にとって必要な改善であり、現場業務の効率化につながる。